

日本地学教育学会 2019 年度第 4 回常務委員会

日 時：2020 年 4 月 7 日（火）18:00～20:00

会議形式：Cisco Webex Meetings による web 会議

出席者：久田健一郎，高橋 修，伊藤 孝，上栗伸一，小関純一，小森次郎，澤口 隆，清水政義，中林俊明，西浦慎悟，廣木義久，藤原 靖，間處耕吉，南島正重，宮下 治，宮脇亮介，吉本直弘，米澤正弘（計 18 名）

議 題：

1. 次期地学教育編集委員会の体制について
2020 年 7 月以降の編集委員会の体制について検討した。次期同編集委員会委員長として、西浦慎悟現同委員会副委員長が推薦され了承された。
2. 『みんなの地学』創刊号の編集状況について
『みんなの地学』創刊号編集班の伊藤常務委員から創刊号の編集状況についての報告があった。二三の原稿を除き、すべて国際文献社へ送付済である。本学会の年度末である 6 月までの刊行を目指す。
3. 日本地学教育学会表彰に関する諸規則改定について
上栗委員より「日本地学教育学会賞表彰規則」改訂についての説明および提案があった。検討の結果、新設部分の「若手学術賞審査委員会内規」については要検討箇所が残り、次回以降の継続審議とした。
4. 大会用銀行もしくは郵便局口座の新設について
昨今の銀行・郵便局新規口座開設の難易度増加の煽りを受け、大会用口座新設が大会実行委員会の負担の一つになっている。このため、学会として郵便局口座を一つ新設し、それを大会用として運用してみることにした。この新設口座は 2021 年度東京大会時からの運用予定とし、数年使用ののち検討することとした。
5. 会勢について
2020 年 2 月 28 日現在の会員数は 553 であり、以下内訳である。

正会員	429
正会員（学生）	9
正会員（シニア）	51
購読有料会員	25
購読無料会員	35
在外	1
在外学生	0
名誉	3

6. 全国大会愛知大会の準備状況および実行基準・方針について
新型コロナウイルス感染が拡大するなか、2020年9月19日（土）～22日（火）全国大会愛知大会の実施方針等について検討を行った。結果、現時点では5月6日までとされた緊急事態宣言の効力期間中の動向を踏まえ、次回5月15日開催予定の常務委員会で方針を決定することとした。この決定に当たり、事前に愛知大会の実行委員会との連絡を密にし、会場大学の状況等も情報収集しておくこととする。並行して、オンライン大会の実施も視野に入れ、こちらも情報を収集していくことにする。
7. 『みんなの地学』2号以降の編集状況について
これまで常務委員会では、『みんなの地学』は特集記事を中心に紙面を組み立てていく旨、議論が行われてきた。廣木みんなの地学編集委員長より、かならずしも特集にこだわらない紙面構成について提案があり、了承した。この点については、同委員会内での議論の推移を見守ることとする。

報告：

1. 各種委員会報告

地学教育編集委員会より、以下の報告があった。

・『地学教育』72巻3号、4号の編集状況は、同誌のwebジャーナルへの移行措置・希望者への冊子体販売対応等で刊行は若干遅れ気味であったが、同4号までには通常通りの刊行スケジュールに回復できる見込みである。

・『地学教育』72巻の冊子体購入希望者は2020年4月7日現在で72名である。

・同誌のwebジャーナルへの移行後、J-Stageへのアクセス数は増加しているが、会員数を考慮すれば、さらに増加の余地が残されている。会員への周知をはかりたい。

・現在の投稿・編集状況は以下の通りである。

新規投稿論文（2020年1月22日～2020年4月2日）

6編（内訳：原著論文 3編，資料論文 3編）

編集中論文（2020年4月2日現在）

21編（内訳：原著論文 11編，資料論文 10編）

次回常務委員会も今回同様、web会議形式とする。実施予定日は5月15日（金）である。